

「初体験ホームステイ」

七飯町立藤城小学校 清野 雅之

海外旅行といえば、ほとんどが景色や物的遺跡の見学や見物、そして異国料理の連続。海外でのスポーツの観戦も然りで、ホテル利用での滞在がもっぱらの方法だろう。

今回、これまでと大きく異なるのは一般家庭にホームステイという滞在方法を使いながら姉妹都市コンコード市民との交流研修をして来ることである。滞在先のホストファミリーは、出発の少し前に決定した。Joyce(ジョイス)さんという方で、建築会社を営まれている旦那様、奥さんはKris(クリス)さんで家庭で絵画教室を開いているという家庭だ。紹介のメッセージカードには趣味が書かれていた。夫のジョイスさんは、電車模型、奥さんのクリスさんは、ギター、スキー、編み物、散歩、美術、貝殻の収集とあった。特に、ジョイスさんの趣味は、是非話題にしたいと思った。私自身が、学生時代から9ミリゲージの趣味にはまり、長いこと鉄道模型に浸っていたからで、多分HOという13.5ミリの幅の線路を敷いてレイアウトを組んでるんだろうなあ。これは、何とも楽しみだという思いでコンコード行きを待ちかねていた。

28日、18時20分発ボストン行きJAL便で13時間かけボストン到着。但し、時差により、アメリカ時間1日前の夜、28日18時頃に当たる。元、ハイスクール校長のトムさんと浅草生まれ育ちのじゅん子さん(通訳)が出迎えてくれた。その足でコンコード美術協会の建物で歓迎パーティーへ。現地午後8時過ぎにホストファミリーの方々との出会いや歓迎に緊張した。最後に、ホストファミリーと一緒に帰宅することとなった。シルバーのトヨタ・プリウスがジョイスさんの自家用車だったが、アメリカでも人気車として使用されているとのこと。また、3年間のレンタル方式で、その後返すか買い上げをするのは、日本の方法と同じだ。到着して、七飯町からのお土産のTシャツや用意してきた日本の扇子・カレンダー・装飾凧等を渡した。とっても、喜んでいるようだった。時差惚けもひどく、部屋・シャワーの使い方を習ってその後早々にベッドに入った。夜中、突然目が覚め、その後どうあがいても寝つけることができなかった。

『表敬訪問～ノースブリッジ』

次の日は、中学生・高校生は、コンコードハイスクール(CCHS)で授業。大人は、町役場にあたるタウンマネージャー表敬訪問、その後、アメ

リカ独立戦争の始まりであるノースブリッジ(北橋)にむかった。川の向こうには、校外授業の小学生の集団が見学に大勢いた。英国の兵隊が攻めて



ミニットマン像の前で



ジョイスさんの台所から見たバードフィーダー&ハロウィンパンプキン

きたときに農業の姿から兵隊にすぐが変われるミニットマンの像があり、その前で町民代表が写真を撮った。午後は、CCHCで歓迎昼食会。教頭先生が中心になっていろいろしゃべっていた。また、校内の見学でハイスクールの授業や業間の移動でアメリカの高校の学生のファッションも見ることができた。派手な子は派手だが、地味やごく普通のカジュアルのセンスで安心した。夜は、ナンシー&ジャックさん宅で夕食会を行った。殆ど持ち寄りの食事でアメリカの家庭パーティーを味わった。子どもは、子どもで固まって大人は大人の話を(高価なじゅうたんの談義になると只聞きっぱなし状態)していた。このようなパーティーが滞在中毎日のように続いた。

『オルコット小学校での授業～ハロウィン』



オルコットの子と土産交換

次の日は、いよいよオルコット小学校への訪問。全校児童470名と校長先生からお話を伺った。全校を案内され特別支援の学級も見学させて頂いた。アメリカでは、1から5年生で小学校で学び、その後中学校生活に入る。全校児童が体育館で歓迎会を催して下さった後、全校で『イカ踊り』を披露して頂いた。七飯町の観光ビデオも持って行ったが、藤城小学校の一年間の様子をプレゼンテーションソフトを使って発表した。アメリカにはない、運動会の様

子のところでは綱引きや玉入れについて興味を持っているようだった。その後、日本の習字(calligraphy)道具を持参していったので1時間足らずの中で、漢字の一、二、三、四、五までを書いて示し、一人ずつ好きな漢字を清書してもらった。低学年でもあり、心が伝わったかどうか不安が多かった。壁に過去に書いたものであろう日本の毛筆の文字が掲示してあったが、ひっくり返っていたのを見ると、日本の字は形としてのイメージが強いと思う。後日、この学年の先生から、授業で書き上げた全員の習字が送ってきた。



オルコット小の校長先生と一枚

一十三＝四という風に半紙を横に使っていたのはアレンジしたアメリカの先生のセンスなのか。どうお返ししようかと悩んだが、結局はクリスマスカードとニューイヤーカードを送ることとした。

午後は、他の人たちと合流し昼食、ファミレスで食事を摂り(店のおすすめのメニューは骨付きのビーフだったが、

焼きすぎでソースもべたべたでうまいとはいえなかった。)その後、街を散策したがすでにハロウィンの格好をした大人も子どもも歩いている。この日は、ハロウィンの日であり、帰宅後クリスさんは数名の子どもたちの絵画教室を終え、夕方から近所の女の子数名がハロウィンの衣装やメイクをして訪問してきた。日本の七夕の日の様子と似ている。歓迎にもハロウィンの格好がよいと思い、日本から持ってきたかぶり物をして用意していたが笑われただけだった。(和風で準備) 今回の訪問では、これまでになくハロウィンに合わせて訪問したが、この後感謝祭やクリスマスが予定に入っていてそちらの方も体験したかったなあとと思う。

『あこがれのハーバード&ボストン』

ホームステイ後半の土曜日に、どこに行きたいか聞いて来られたので、憧れのハーバード大学やボストン美術館の話をしたら連れて行ってもらえることになった。コンコードからハイウェイを使っても40分くらいのところにあった。雨混じりの天気ではあったが、途中野生の七面鳥や渡り鳥の雁の群れとも遭遇した。欲を言えば、野生のスカンクなんかも見かけた。ハーバード大学は、キャンパスも広く、近くのマサチューセッツ工科大学も併せればノーベル賞受賞者を確か60人以上輩出しているは



ハーバードの左足を摩る



ボストン茶会事件の船-復刻

ずだ。ハーバードの像は皆が右足を手でさするらしく金色に光っていた。(本人の像に思われるが、後世イケメンのモデルを使用したそうだ。)トムさんもここを卒業したそうだ。また、博物館には、世界の植物・鉱物標本や動物の剥製(絶滅したドゥードゥーも展示していた)ボストン美術館は、国別に

パピリオン化した配置で日本から流出した甲冑や蒔絵・版画・刀もあり、ルノアールやセザンヌ、ゴーギャン、ルーベンスの

絵画は勿論のこと、アメリカのティファニーによるステンドグラス類のデザイン展示もなされていた。

最終日には、中学生、高校生との一行はボストンの市内巡りを行った。マサチューセッツ工科大学を見学し、水陸両用バスの『ダックツアー』で港や運河を巡った。昼食後はジョン F ケネディの生家を外から見学(冬季閉館中)、夕方にはボストンレッドソックスの本拠地であるフェンウェイ球場を見学。すっかり暗くなり、最後の宿泊のザミッドナイトホテルへ移動した。



フェンウェイ球場

『コンコードから いざ帰国へ』

松本課長と篠田さんとの3人部屋だったので、それぞれのトランクの重さを測ったら自分のが一番重たかったようだった。ホテルに計量する秤もなく23キロ以内にするには、結局次の日の空港を待つほかなかった。晩ご飯は、近くのチャイニーズレストラン『P. F. Chang's China Bistro』で食べた。中学生は途中、疲れたのか寝てしまった子もいた。次の日の朝、ホテルの別室で朝食を摂り、11時50分発成田行きJAL007便で帰国について。中学生も高校生も今回のホーム



函館空港ロビーで総務課部長、係長、クリスさんの出迎え

ステイは初体験であり緊張もかなりのものであったと思う。ジェット機の酔いもあったが期間中の疲れでぐったりしている子が多かった。羽田から函館空港へはすぐであったが、役場職員の出迎えや家族と久々に会えたこ

とでほっとしたことだろう。

コンコードとの今回の交流を通して、特にこれからの七飯町を支えていく中学生、高校生にとっては家族旅行と異なり、身をもって体験交流できたことはこれからの人生に大きく影響を与えたことだろう。広い視野に立って、グローバルな眼と心を養う場になったと思う。この機会を得て、将来の夢や希望に大きく貢献できたと確信できたすばらしき研修旅行である。
(了)